

---

## 看護過程展開演習

栗原幸子（基礎看護）

---

### 科目の新設の経緯と実際

---

本科目は、本学における第2段階実習から第3段階実習へ移行するためのつなぎとして、看護の視点の基盤を作ることを目的に新設された科目である。本学の学生たちは、第2段階実習にあたる2年次後期の生活援助・療養援助実習で患者1名を受け持ち、情報収集・アセスメント・計画立案・実施・評価といった一連の看護過程を初めて展開する。ここでの看護過程展開を基盤として、第3段階実習、すなわち3年次後期の各専門領域の実習で、様々な発達段階や健康レベルの対象への看護過程展開へと学修を進めていく。本学の各専門領域実習で使用している看護過程展開の理論枠組みは、それぞれの対象の特性に応じたものを採用しており、学生たちは各専門領域の講義または実習前の演習においてそれぞれの看護過程展開の枠組みについて学修し実習に臨む。旧カリキュラムにおいて、第2段階実習で看護過程展開は既習事項であるにもかかわらず、第3段階実習で学ぶ看護過程展開を別物ととらえ、領域が変わるたびにリセットされているような学生の反応があり、看護過程展開の学修が深まらないことが課題であった。そこで、各専門領域の看護過程展開を本格的に学修する前のつなぎの科目として、本科目が新設された。

本科目の授業は、2年次後期の生活援助・療養援助実習が終わった翌週よりはじまった。導入にあたる1回目の授業では、直近の生活援助・療養援助実習で各学生が展開した看護過程をグループメンバーに報告し、実習で各自が歩んだ看護過程展開のステップを再指定するワークを行った。その後は、毎週2コマずつ、成人保健看護・老年保健看護・精神保健看護・小児保健看護・母性保健看護・地域保健看護の各専門領域の先生方に講義・演習を担当いただき、オムニバス形式で展開した。各回の授業では、それぞれの領域の特徴的な事例が提示され、その事例に対して各領域の実習で実際に使用している枠組みを用いて情報を分析するワークに取り組んだり、生活援助・療養援助実習で受け持った患者の情報を専門領域で用いている看護の観点でとらえなおしたり、個人やグループ単位で実際に事例の看護を考える授業内容であった。最終回では、それまでの授業で取り組んだ事例について、看護の対象の特性を改めて捉え返し、各事例で使用した枠組みや観点の特徴を整理するワークを行った。受講後、学生からは「領域ごとの看護の観点や枠組み特徴があることが理解できた」「対象に合わせたモデルを使って看護過程を展開することがわかった」「さまざまな枠組みがあるが看護をするための共通点があった」などの意見があった。

---

### 新カリ完成（2025）年度に向けて

---

本科目のねらいは、第2段階実習から第3段階実習へ移行するための基盤づくりにある。したがって、今年度の授業展開がねらい通りであったかどうかは、本科目を受講した学生たちが、次年度以降、各専門領域の看護過程展開に取り組んだ時の状況に反映されると考える。本科目受講後の学生たちが第3段階実習での看護過程展開にスムーズに移行できることを願い、看護過程展開の学修が深まる授業を探求していきたい。

---